

( ) 員張出京東部船船

大正五年三月六日  
 海軍省軍務局  
 東京市日本橋區駿河町志番地  
 三井物産株式會社船舶部  
 東京出張員  
 拜啓 明海丸離礁ノ事  
 救助ニ付作配責相候シ莫本船ニ先刻藥方機務中上リ  
 通リ自カテ離礁任ハ右ノ付只今神戶ヨリ別紙電報  
 有之ニ付右作配中上リ覽置候上ニ種々作配相候  
 恐結。存申ル。先。右中上ニハ斯等。致具

軍務局  
 局員  
 三井物産株式會社

(三井物産株式會社) 0144



大正十一年三月五日午 前 一時 五分 局 着

明海丸 豆粉 備載 大連より 神戸 廻航 申 今 既 五  
時 来 島 河 崎 馬 島 並 例 二 半 進 多 一 番 二 番 船  
底 大 破 吃 水 船 首 二 二 欄 二 二 至 急 船 仰 転 ぐ ト  
船 長 引 来 電 依 二 船 仰 多 因 一 島 鈴 工 形 一 依 載 二  
先 ト 已 相 当 一 設 備 十 又 当 地 及 長 崎 共 十 一 引  
揚 多 一 船 仰 船 中 非 常 之 困 難 中 考 様 海 軍 官  
高 二 敷 載 五 名 口 号 引 船 仰 船 以 遣 一 予 ノ 交 涉  
船 人 香 川 十 区

山 中 二

林 錦 彦

軍務局

自 神戸 船 務 部

三井物産株式会社  
船舶部東京出張員

0146

大正 5 年 3 月 5 日 午後 5 時 50 分 局 着 發 電

明海丸其後、懷報ヨシハ遭難場所、激流烈シク、  
船其危陰ト来電、救助ノ事、東京海上ト打合ヒ、  
丸明海丸同司、現場、派遣ス

3342

0147

自 邦 邦

三井物産株式會社 林  
船舶部東京出張員

大正 7 年 3 月 6 日 午 前 1 時 分 發 局 着

昨日丸一 = 番船 高物一部 積船之 移し一部 投  
棄し 潮流ヲ 利用し 自力にて 入る 敷之時 離礁地  
此時 一旦 離 採取 岸 南部ノ 小部 湾 安全 錨地  
ニ 投 錨 せし 故 方々 浸水 増 入ニ ヨリ 午 前 六 時  
脚筒ヲ 利用し 無子 絲 罅ニ 着 目 多 浸水 乃 又  
ト 一 七 尺 一 番 船 全 部ニ 番 船 七 尺 バ ン カ ー  
四 尺 二 番 船 ノ ン ン 三 寸 高 地 三 半 海 三 尺 中 船  
安全ト 絲 罅ノ 糸 田 裁 断 ヲ 事 事 也

自 神 戶 船 務 局

三井物産株式會社  
船舶部東京出張員

0148

抄

第社在形明海尤巨粒滿載大連男神戶向行  
中昨日午前三時瀬左内海末島梅味島島北  
側、些礁、一番、二番、船被大破吃水形有  
呈、吹、浪、三、吹、至、急、故、船、頼、今、本、船、長  
引、未、電、有、之、矣、者、早、速、回、國、島、大、板、鐵、工、所、公  
工場、本、船、被、助、身、の、依、頼、修、復、回、所、の、  
相、需、に、該、船、多、之、又、川、崎、三、菱、而、送、取、所、の、  
此、今、才、の、脚、引、揚、為、之、故、助、形、強、下、皆、無、有  
之、此、常、の、田、難、作、漸、の、亦、亦、海、上、保、險、會、社

0149

支法、結果中一魁九ヲ獲船、今新内口の帆  
 現物、向フ星、望多然、此此、設備不完全  
 七多列、底目的、ツ道元事能、先義ト有  
 船後拂、寄、田、難、極、折、柄、孝、祐、助  
 形、内、派、光、知、カ、四、ツ、誠、難、有、任、在、多、了、為、異  
 陸、身、有、ト、内、打、石、ニ、付、一、口、奔、船、駕、所、長、島、張、所、長、島  
 務、諒、一、幫、社、代、理、ヲ、有、様、加、計、為、親、物、一、幫、社、形  
 長、取、津、印、年、出、張、出、取、多、一、寄、内、下、原、中、右、石、親、取、多  
 何、年、在、物、所、所、設、請、ヲ、寄、内、許、合、知、カ、計、伏  
 中、多、取、多、也

喜多市日奉橋に臨河亭を築

大正五年三月廿七日  
喜多市日奉橋に臨河亭を築

喜多市日奉橋に臨河亭を築  
三井物産株式会社  
三井物産株式会社  
三井物産株式会社

海軍大臣

加藤友三郎閣下

0151



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0152





軍務局

大正五年三月七日 午後二時四十分 海軍局發

發信者 大湊要港部司令官

受信者 海軍次官

電報譯

華四駆逐隊八番ノ汎強烈波浪高ク外洋ノ汎海ニ絶ヘズシテ途中ヨリ引返シ函館ニ向ヘリ今所急速運難地ヘ到着ノ見込疑ハシキニ依リ取計ラセタギフ

(3)

海軍

0155

軍務局

凡曾與海上荒し者隊至館ニ遊  
泊局員



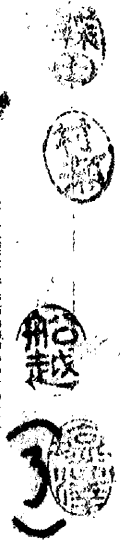
受信者 大尾

電報譯

發信者 第四驅逐隊司令

大正五年三月七日 午 一時十五分 郵局發

五時二十分 海軍局着



海軍

加展納

軍務局  
53.8  
接受

0156

供覽

軍務局

海軍省製方函在る

古後 原一 (東大)

取敢て礼申上ケマス  
局員  
私ノ其後トモニテ  
救助出来ス

供覽

軍務局

軍令

御

電案

大湊司令官

次官

三月六日 海軍

海軍

神戸(一)有汽船咸興丸(二〇八噸)羽根舟(一)を  
燒尻(八)天(一)向(一)途中(一)日夜(一)天(一)用(一)急(一)處(一)四(一)理(一)時(一)生(一)機  
機用(一)新(一)浸(一)水(一)十(一)四(一)尺(一)及(一)沈(一)没(一)溺(一)死(一)了(一)了(一)漁(一)火(一)舟(一)六(一)名  
兼(一)船(一)了(一)了(一)生(一)可(一)危(一)に(一)救(一)多(一)ク(一)乞(一)フ(一)古(一)船(一)出(一)タ(一)リ(一)概(一)無(一)以(一)處  
之(一)聞(一)又(一)急(一)名(一)聖(一)急(一)高(一)知(一)シ(一)タ(一)シ

御

森田

村野

石

第一班

軍務局

海軍省

0156

海軍

燒尻天賣之向ッ途中

威興丸

(三八〇噸)

明後國舟ヲ著シ天盛國鬼鹿四渾沖

ニテ座礁

(擱船)

淺水十四尺及ハ沈没ノ瀬レツ、ア

人夫千七百名(傷死) 生念印之危シ

松助ヲ乞フ

(松原納)

0159



3



大正

軍務局

軍令部

大正五年三月 日午 時 分 局發

大正五年三月 日午 時 分 局着

受信者 大臣

電報譯

大

發信者

大正海軍部大臣

海軍部 救助方同船長より出願ニ付明朝起能艦  
曙ヲ現場ニ向ハシム



海軍

0160

三島市  
官局

救助御願

八九 徳化教 二千八十噸

長崎市築山三善若地原長一

二月廿八日午利後由船川港

而燒尾島、揚陸セ、ル為、別種

祈禱一海丸、船于六重名、搭載シ航行、途中又五

五年三月廿日午後九時頃天墟玉番崩共十海里鬼祭

南約四海里、共ニ嗟然目下船体旅客救助中。

南五候、共天候悪、加、ル、救助不足、為、奉旨

名揚陸、夕、共、殘餘、旅客救助、困難、甚中

救助御願候也

水島重吉

0162

神戸市榮町五丁目五番  
電話長本局八六四

0162 0161

*Fubichi Midyushima.*

MIDZUSHIMA & CO.  
KOBE & KOFU,  
JAPAN.

三月十四日  
官局發

遭難救助御願

一 汽船 成興丸 總七敷 二千八十噸

船主所有者 長崎市築山三善善地奈貞一

右汽船大正五年二月廿八日正午利後由船川港より

北海道天賣島燒尻島、揚陸セラルル為ニ別種

旅客一漢夫(彦千六)重石ヲ搭載シ航行ノ途中大正

五年三月廿日午後九時頃天埶玉島前共十海里鬼森

南約四海里ノ美ニシテ燃目下船体旅客救助中。

爾ニ候、共天候悪ク加フルニ船中不足ノ為、幸百

名揚陸セラル共殊餘旅客救助ニ困難、甚事

御願ニ付何卒至急救助方奉願候也

軍務局

0162 0161

原真一氏

東京都渋谷区市兵衛町二丁目五

原 萬一郎


大正五年三月六日

海軍大臣加藤友三郎殿

(土佐井)

0163

# 電 報 着 信 紙

局 着	局 發	受 信 人 居 所 氏 名			
取扱者 受信 付午後 時分	付午後 時分 字	日 月	第 號	局 號	軍務局 官報 供覽 
咸興 カンコウ丸ヲ乗船無事揚陸ヲ終リ最早 救助必要ナキ旨電報アリタルニツキ駆込隊 派遣ヲ取止ム 三月八日 大陸要所部 五五九		定指 前	番着 數紙 名氏所居人信發 信 號 第 九 號 印附日信着 大南		
		事記			
		0164			

5.3. 9 0164

軍務局

大正五年四月二日 午前五時一分 利根艦富貴備發  
大正五年四月二日 午後一時五十分 海軍局着

受信者 海軍大臣  
發信者 第六戰隊司令官

電報譯

明石艦長報告(三十日午後六時電)ノ要旨  
地詳九頁(四節)速力ニテ擱坐之第一  
第二船艙満水之五六度ノ角慶三ノ岸上ニ  
乗リ揚リ居リ船客手荷物及船員ハ  
驅逐艦ニテ香港ニ渡リ今夜八時ノ満潮  
ニテ曳船ヲ用中引キ卸シテ試ム難地所  
近水深ハ充分ナモ潮流強ク坐礁ノ状況  
ハ明石ニテ引キ卸シ覺束ナト認ムト

海軍

0165

軍

明石午後七時南了島ノ東方ニ飯伯明朝  
香港ニ入港ノ豫定(三十一日)

(花時納)

海軍

0166



大正五年四月四日午後〇時四五分船橋無線局發

大正五年四月四日午後〇時四五分海軍局着

海軍局

發信者

第六戰隊司令官

受信者 海軍大臣

電報譯

地洋丸遭難ニ関スル明石艦長報告要領  
左ノ如シ

三十一日朝地洋丸遭難ノ報アルヤ英官憲  
ハ駆逐艦一隻ヲ現場ニ急派シ旅客手持  
物及船員ノ一部ヲ香港ニ輸送シ更ニ現  
場ニ引返シテ明石到着迄其ノ保護ニ  
任ジカッター、疾船及汽船ヲ派シ救  
助ニ從事セリ、地洋丸ハ十四節ノ速力

海軍

0167



ニテ岩礁ニ乗上ゲ船首ニ大破損ヲ被ル  
 第一、第二船艙後ニモ損傷アル模様ナル  
 ヲ以テ具体的防水工事ヲ施スカ又ハ大ナ  
 ル汽船ヲ以テスルニアラザレバ引下シ方  
 不可能ナリ坐礁位置ハタンカン島(?)  
 午後三時現場着状況調査ノ結果引  
 下シ到底不可能ナルヲ認メ夕刻カ  
 リヨウ島ノ東方ニ假泊シ翌一日早朝  
 更ニ遭難地ニ至リ変化無キヲ認メ午  
 前十一時香港ニ入港セリ然ルニ同夕刻  
 ヨリ南東風強吹、為メ船負地洋丸退  
 去中ナリトノ報ニ接シ天命ヲ待テ二日

(花崎節)

軍

午前六時出港浦 難地ニ赴キシガ波  
 浪高クシテ接近スルヲ得ズ總体ノ外  
 ハ左程危険トモ認めズ且ツ英國駆逐艦及  
 貨物船高ホ其ノ附近ニアルヲ以テ午後  
 一時香港ニ帰ルセリ船員ノ一部ハ商船  
 船内ニ残留セルモノノ如シ

(花崎納)

(3)

海軍

0169



		大正		年		月		日		日		時		分		局		局		番		發	
										受信者													
										電報譯													
										大正六年三月七日 午後七時 東京 海軍													
										東京 海軍													

花

0171

供

電

軍務局

艦政局

軍令部

大正五年四月十一日午前十時三十分 海軍 馬要司令官

受信者大臣

電報譯

地洋丸遭難ノ情況ニ關シ嵯峨艦長ノ報告  
左ノ如シ同船ハ船首北ニ向ヒ坐艦ニ首尾  
傾斜約卅度左ノ傾斜右五度上甲板ハ  
略三分一海水浸サテ前部少シク左ニ折ス  
引卸作業見込サキモト認メ現機ニハ香港政廳  
ヲ派出セル雜役船来リテ監視セリ英國駐込艦時  
来リテ諸荷物ヲ香港ニ運搬セリト云フ

班  
海軍  
馬要  
司令官  
電報  
譯  
5.4.12  
受

遭難

0172

伊賀

軍務局

明治三十一號

大正五年四月十一日於馬公

明石艦長 筑土次郎

海軍大臣 加藤友三郎 殿

遭難船情况報告一件

別紙地洋丸坐礁ニ関スル情况報告一稿

右達ス

別紙一稿

海軍

0173

地洋丸吐礁ニ関スル情況報告

本艦ハ南支那海ヲ交通スル汽船ヲ巡察スルノ目的ヲ以テ大正  
 五年三月三十日馬公ヲ發シ香港ニ向ツテ航行中翌二十一日午後〇時  
 二十分地洋丸ヨリ「午前四時三十分擔杆島ニ吐礁セリ」とノ無線  
 電信ヲ傍受シタルヲ以テ精確ナル位置及救助ノ要否ヲ問  
 合セタルニ救助ヲ希望ストノ返電ヲ得タリ直ニ増速変針  
 シテ擔杆島ニ向フ一時四十分先記無線電信ヲ傍受ス  
 三十分前四時三十分船体ニ異状ノ激動ヲ感ス依テ「タ  
 タキユラー」局ヲ呼ビ出シ豫メ注意ヲ與テ救助ノ後船長  
 ヨリ危急符合ヲ送り正式ニ救助ヲ求メラレタリトノ要  
 求ニ應ジ其旨並ニ位置等ヲ前局へ通報シ先方ヨリ  
 英國海軍當局ヨリ駆逐艦ヲ急行セシメタリトノ報告  
 得タリ船客(三九九名)全部及船員(三六三)ノ一部ハ「タ  
 タキユラー」局ヲ呼ビ出シ豫メ注意ヲ與テ救助ノ後船長

海軍

ボートニ移乗シテ時ヲ待テリ之ヨリ先ケトポトキエラトシテ  
急ヲ告グルト同時ニ附近ニ在ル船艦ニモ救助ヲ及ボシ  
試シモ無効ニ終レリ但至テ強勢ナル日本海軍ノ電波  
感應セリ本省ヘハ初メテ電報ノ形式高貴角大瀬  
崎兩局ヲ經由シ大屋宛ニテ第一遭難報告及  
覆送信セシカ空電激甚ナリシ故果セラ受信ヲ  
与セシヤ疑ハル午前六時救助駆逐艇ト通信連  
絡ヲ取ルヲ得ルモ濃霧ノ為ノ互ニ船影ヲ認ム  
能ハス以後頻繁通信ヲ交換シ前七時漸ク  
彼ノ救助ヲ得タリ船客ハ談艇ニ移リテ向メテ  
香港(十九哩)ニ向ヘリ「ガギエラ」トモ能ハス通信シ  
前記駆逐艇ノ外多数ノ救助艇ノ派遣ヲ見タリ  
船ハ屏風型ヲ十セシ直直ノ若石ヨリ成ル小島

洋 望



細狭部ニ船首ヲ乗セ上レモノミシテ第一第二船艙充  
水第三船艙ニハ先水ヲ見サレトモ下部ヲタンクハ大破シ  
居ル由ナリ専門的損傷ノ程度ハ小官ノ言明シ難キ所  
ナリ共外部ニ現ハレタル所ヨリスレハ可ナリ甚シキモノ  
如シ無線長

午後三時三十分遭難現地着副長指揮ノ下ニ人負テ地洋  
丸ニ派遣シ又監視中ナリシ英駆逐艦「ホアイチンク」ニ士官ヲ  
派遣シ謝意ヲ表ス

地洋丸ハ檣杆島ノ東端 *Ship Head* (海番香港附近四二號)  
ノ南面ナル窪狭部ニ船首ヲ北ヨリ西ニシテ墜礁シ水線上一  
一呎ノ所ヨリ以下ノスラム左右ニ周烈レ右舷ニ三三度前後  
五六度ノ傾斜ヲナシ浸水ハ前記信文ニ示ス所ト同断ニシテ  
附近海面ハ重油ヲ以テ覆ハレ水中ヲ透視スルコト能ハ

海  
軍

サルモ第三船艦後ニ天櫃所アルヲシテ何分十四哩ノ速力  
 ニテ兼セ上ケタルコトナレハ具體的ノ防水ヲ施コシ又大ナル流  
 船ニテ曳クニ非ラサレハ引卸シ方不可能ナリト思考ナレ、  
 くとナラス却テ此後引卸シテナスハ危険ナルヘキヲ察シ本  
 艦ハ自艦ノ保安上濃霧ノ襲来ニ先チ一先安全ナル  
 仮泊地ニ避退セントシ午後四時五十分南子島東方  
 向ヲテ現場ヲ出奔セリ當時風ナキモ海上長濤ナリ  
 納モスレハ濃霧来襲ス。船員ノ言ニ依レハ望遠ノ原因  
 ハ濃霧ノ羅針ノ自差及潮流ノ偏歴ニ依リ推測  
 位置ヨリ五十哩ノ差位ヲ生シタル為ナラン  
 四月一日午前六時三十分仮泊地出奔八時地陣丸附近着  
 現状昨日ト何等ノ変化ナレ同船ハ昨日午後八時ノ高潮時  
 ニ自カト曳船ニ復テ自カト曳キ即チ試行シタルモ成功

0177

也。猶今朝二時及八時、於ノ重クテ試行何レモ不結果  
ニシテ、本艦ノ現状、何等危險ノ顧慮ナク監視ヲ  
要セサルモノト認メタルヲ以テ同地点ヲ引キ上ケ午後一時  
四十五分香港ニ入港ス午後ヨリ北東風強吹夜ニ入り地洋  
丸殘留ノ船員ハ遂ニ陸岸ニ避難セリトノ報ニ接ス  
四月二日午前六時天明ヲ待テ地洋丸船員救助ノ為メ  
香港丸九時半現地着多少船首ノ方位ヲ變セルカ  
如キモ特ニ異状アルヲ認メズ波浪ノ為メ船体動搖シ  
多少破損ヲ堪レタルモノト察スルモ猶船員ノ一部ハ船内  
ニ殘留シ陸岸ニ在ル者ト索條ヲ以テ連絡シ英駆逐艦  
「ホアキチンガ」及汽船ニ復テ監視セリ汽船「奧東丸」  
同時ニ同地真ニ到着兩隻是等諸艦船ハ到リ續キ  
監視警戒ニ從事セリ、午前十時本艦ノ現状危險ナキ

モト認ノ香港、向フ

四月五日地洋丸、數日來、凡浪、ヨリ本日、正午、

船艙附近ヨリ船体面後、兩断レ船尾ハ海底、沈下

シタリ乗員、大部分香港、引キ其子ケ約五十名丈ケ

監視ノ為、遭難地陸上、残留セリトノ報、接ス

四月六日午後一時半<sup>香港</sup>出港、ブラタス島經由馬公、向フ午後

三時地洋丸、接近シテ状況ヲ觀察スル、船体ハ、

前部、於テ折斷シ其前半ハ岩上、平ニ横生シ居ルモ

後半、約平度ノ角度ヲ以テ船尾全ク海中、沈下

(別番考照)レコテリ、ノ、頭部ト后橋、上半部ヲ水上、露

出シ居レリ遭難地点海底ノ傾斜甚クシト昨今引續

ケレ荒天ノ為、損傷日日増大スル模様ナリト、徴スルハ

引揚ケハ非常、困難ナシヘク前船橋ヨリ前部、

其供ナルハキモ後部ニ岩多ク滑リ崖ヲ沈没スルノ患アリ  
 ト思存ス山上岩角ニ索條ヲ張り渡シ陸上船員ノ  
 手ヲ以テ荷物ヲ一個宛釣リ揚ケウレ在レテ認メタルニ  
 風波尚高キカ故ニ其レ以上ノ看察ヲナシ得レ位置ニ  
 接近スルヲ得ヌタグボート其附近ニ在リ海賊等ニ對シ  
 警戒モ亦充分ナリト認メ本艦務定ノ任務ニ向ツテ  
 該地ヲ去レリ



大正五年  
四月一日  
地洋丸  
実況

海

軍

0182 0181



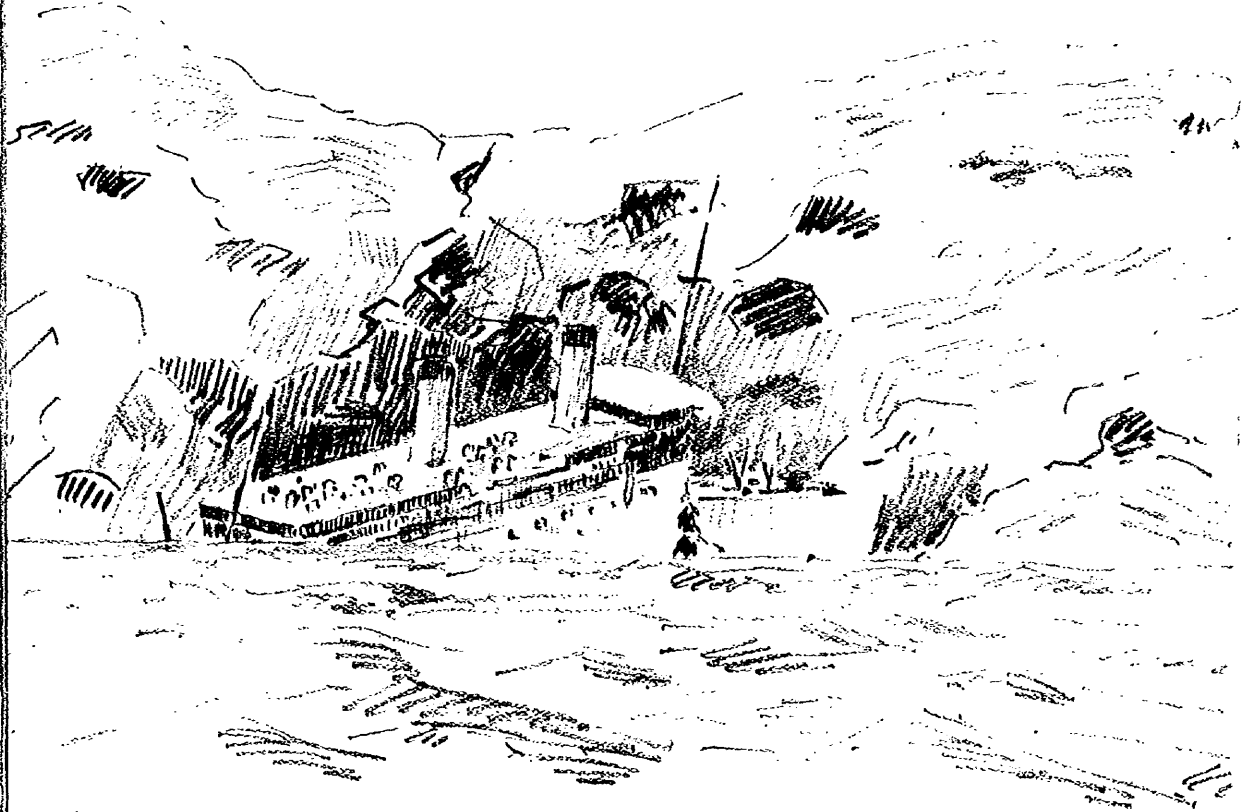
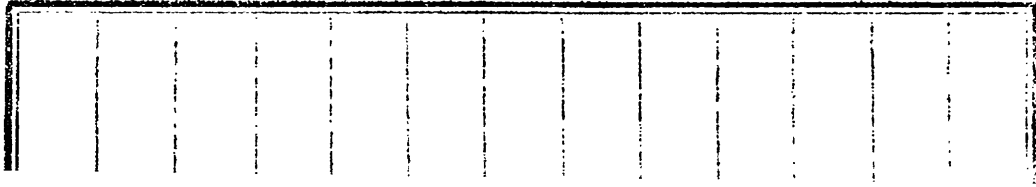
海軍

0182 0181

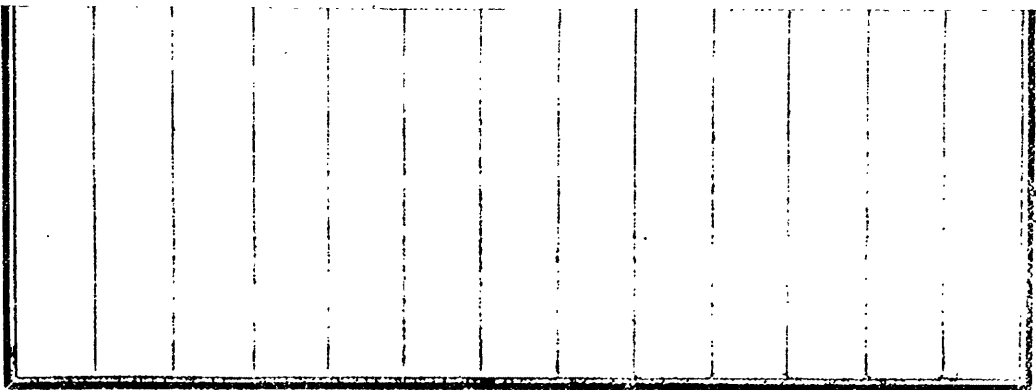
アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

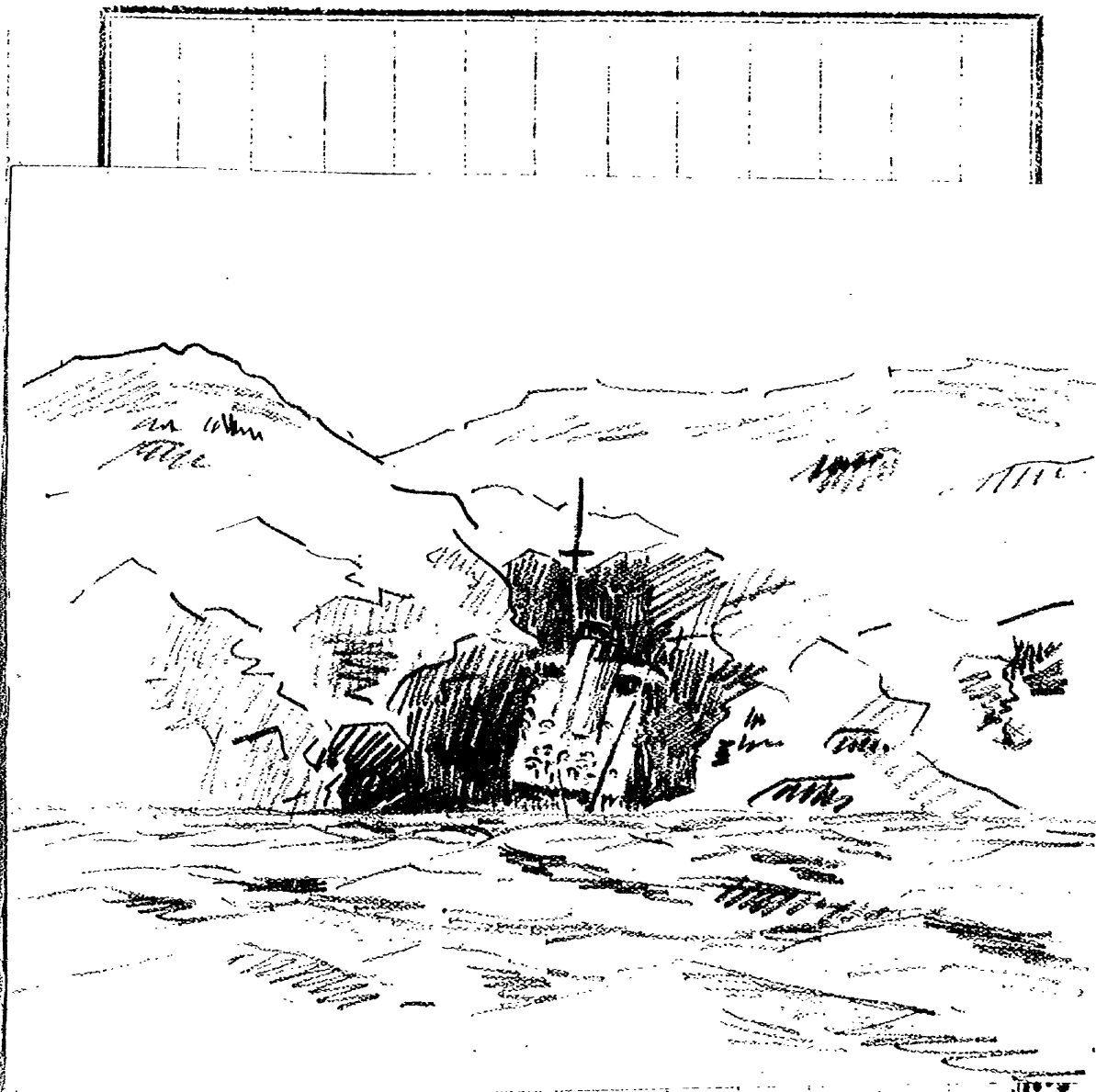


0183



軍





軍

0184